

二〇二二年度
入学試験

国語

一回（二月一日） 富士見中学校

注意事項

- (1) 問題は1ページから24ページまであります。
- (2) 問題にページ不足や印刷の良くないところがあれば、すぐに手をあげて、かんとく監督の先生に伝えてください。
- (3) 解答はすべて解答用紙の定められた場所に、指示通りに記入してください。
- (4) 句読点等は字数に数えて解答してください。



次の傍線部ほうせんぶのカタカナを漢字に直しなさい。

- ① ヨウリヨウよく課題をこなす。
- ② 契約書けいやくにシヨメイをする。
- ③ ヨウサン業が盛んな地域。
- ④ チユウセイ心が試される。
- ⑤ 身のケツパクをうったえる。
- ⑥ シキンセキとなる大会だった。
- ⑦ コメダワラを担いで歩く。
- ⑧ オビに短したすきに長し。
- ⑨ 遅刻しないようにツトめる。
- ⑩ 魚屋をイトナむ夫婦。

(問題は次のページに続きます。)

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(設問の都合上、本文の一部と見出しを省略しています。)

アンカリング効果とは先にある数字について考えると、その数字が錨※いかり(つまりアンカー)のような重みをもつてしまい、後続する判断がそれに引きずられることをいいます。係留効果と呼ばれることもあります。先行してある数字について考えることが、後の判断のヒントになる、という言い方もできるでしょう。

たいていの文脈においては、たまたま出会った特定の数字をひとつの目安として使うことは役に立ちます。

I、部屋着としてのスウェットシャツを買おうとスポーツ用品店にやって来たところ、よく耳にする有名ブランドの商品に九〇〇〇円の値札がっていたら、スウェットシャツの値段の相場を知らなくても「今回買うのは部屋着目的だから、これより安いので十分」と考えることは **X** が通っています。【A】

ところが問題は、先行して目にする数字が、メインとなる後続の判断とは何の関係もない場合でさえ、**II**、関連させて判断しない方が良い場合でさえ、アンカーとしての影響力えいりきやうを持つてしまうことです。

B アンカリングの影響を示す最も有名な課題しよかいを紹介しましょう。回答者の前にはルーレットが置かれていて、これが回され65という数字に球が止まったとします。そこで、回答者はまず「国連に加盟国のうちアフリカの国々が占める割合は65パーセントより大きい小さいか」を選ぶよう求められます。これに回答したら、続いて「では、何パーセントくらいだと思うか」を数値で答えるよう求められます。

III、ルーレットで出た数字(65)より上か下かを先に考え、その後、国連加盟国に占めるアフリカ諸国の割合はどれだけかを推定する

よう求められるという手続きです。【C】

もし、ご自身が回答者だったらどうしますか？ 最初の65パーセントより上か下かについては、「いくらアフリカ大陸が大きいといっても国連の65パーセントを超えるほど多くの国はないだろう」と考え「65パーセントより小さい」にします」と答えるのではないのでしょうか。すると係員から「では、具体的には何パーセントくらいでしょうか」と尋ねられます。これについては「65パーセントよりも小さくて、はつきりとはわからないけど、じゃあ、まあ45パーセントくらいということだ」という感じでしょうか。【D】

実はこのルールレットには細工がしてあって、ある人たちには必ず65が出るようになっており、別の人たちには必ず10が出るようになっていたのです。実験の結果はどうだったかというところ、65が出された回答者たちの代表値（中央値）は45パーセント程度、10が出された場合では25パーセント程度だったのです。つまり、

Y

（ちなみに正解は二〇二二年四月現在で約36パーセントです）。

ここで面白いのは、たまたまルールレットで出た目と、国連に占めるアフリカ諸国の割合とには、何の関係もないということは誰にだってわかる、ということなのです。もちろん回答者にだってわかります。【IV】、ある数

値を一度基準として考えてしまうと、無関係とわかってはいながら、その無関係な数字に強く影響されてしまうのがアンカリング効果の面白くもあり、恐ろしくもあるところなのです。

その後、なぜアンカリング効果が起こるのか、その心理的なくみはどうなっているのか、という問題が検討されてきましたが、本書ではそこらは措いておき、[※]リスク認知の問題に適用してアンカリングの影響について考えてみましょう。

二〇一一年三月一日に発生した東日本大地震は、本震後数時間のうちに二万人近い死者・行方不明者を出しました。その九割以上の死因は溺死^{できし}でした。つまり、ほとんどは津波^{つなみ}の犠牲^{ぎせい}となったわけです。この震災^{しんざい}で日本人が地震と津波の恐ろしさを再確認したことは間違いありません。しかし、どうかたちで恐ろしさを感じるのかについては、アンカリングによる看過^②できない影響が予想されました。

地震学者である大木聖子さん（慶應義塾^{けいおうぎじゅく}大学）は、たまたま東日本大震災の前年、津波に関する全国調査を実施^{じっ}してしました。その調査項目^{こうもく}の中には「避難^{ひなん}すべき津波の高さはどれくらいですか」、「恐ろしいと思う津波の高さはどれくらいですか」といったものが含まれていました。私は震災が起こつてすぐに、ぜひもう一度同じ項目で調査すべきだと考え、共同研究を実施しました。日本人は津波の恐ろしさを再認識しながらも、アンカリン^③グの効果で、津波に対する認識が危険な方向に歪^{ゆが}みつつあるのではないかと考えたからです。

というのは、例えば「宮古^{みやこ}・田老^{たろう}地区 津波三七・九メートル」、「福島第一原発を襲^{おそ}った津波は高さ一三メートル」というかたちで、非常に大きな数字が連日報道されています。歴史的にもまれな巨大津波^{きょだい}ですから、大きな数値が報じられるのは当然です。しかし、アンカリングにより、それらの大きな数字が目安になってしまい、避難^{つなみ}すべき予測津波^{つなみ}高や恐ろしいと思う津波の高さが以前よりも引き上げられる可能性が考えられます。言い換^かえると、巨大津波を経験した結果、高い津波でないと逃げない、高い津波でないと怖^{こわ}くない、というふうに相場^{あて}が引き上げられてしまったのではないかということです。

※ 先の問7では何メートルと答えましたか？ 実は、津波は二メートルで木造住宅を全壊^{ぜんかい}させ、一メートルで半^{はん}

壊させる破壊力を持っています。わずか五〇センチメートルの津波でも大の大人が立っていられません。津波は単に潮位が上がるものではありません。ものすごい重さを持った大量の水が、すさまじいスピードで押し寄せるのです。運動エネルギーは重さと速さ（の二乗）[※]で決まりますから、津波というのは巨大なエネルギーの塊です。にもかかわらず、巨大津波で甚大な被害を受けた結果、その津波に対して脆弱になる方向に認識が変わるとしたら、たいへん皮肉なことです。

果たして結果は、皮肉なものでした。次ページの図は南海トラフ地震が発生した場合に津波がやって来ると予想される、静岡県以南の太平洋側に位置する一七府県の住民のデータを抽出した結果です。

(中略)

巨大津波の来襲という事実と、津波の高さに関する膨大な報道の影響によってこのように認識が変化してしまつたのですから、この認識をさらに変容させることは容易ではありません。研究者としてわれわれのすべきことは、認識が危険な方向に変容したという研究結果を世間に伝え、問題を提起することだと考え、報道機関に向けた公表と資料提供を行いました。いくつかの新聞やテレビ番組が取り上げてくれましたが、強力で皮肉なアンカリング効果に対して、それくらゐのことでは対抗になっていないというのは正直に思うところです。

(中谷内一也『リスク心理学 危機対応から心の本質を理解する』より)

※錨……船をとめておくために、綱・鎖などをつけて水中に沈める鉄製のおもり。

※代表値(中央値)……回答全体の真ん中の値。

※リスク認知……今後起こりうる望ましくない出来事の「起こる可能性」や「望ましくなさの程度」を人々が判断するしくみ。

※先の問7……本文引用部分より前に、導入として筆者から読者に出题された問題の一つ。内容は次の通り。

「東日本大震災では、地震から数十分後に高さ一〇メートルを超える巨大津波が押し寄せ、多くの沿岸住民が犠牲となりました。さて、あなたが東北太平洋岸の観光地で宿泊していたら、真夜中に地震が発生したとします。津波を避けるために避難した方が良いかもしれませんが、たいした津波でないなら、真夜中の移動はかえって危険です。あなたは、気象庁が予想する津波の高さがどれくらいだったら、夜中であろうが避難しますか？」

※二乗……その数や式に、それと同じものを掛け合わせる事。たとえば3の二乗は 3×3 で9。

問1 空欄

I

IV

 に入る適切な語を次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア つまり イ けれども ウ ところで エ なぜなら オ あるいは カ 例えば

問2 ———— ① 「よく耳にする有名ブランドの商品に九〇〇〇円の値札がついていた」とありますが、もしこの

商品を、本文で説明されている「アンカリング効果」を活用して売ろうとした場合、どのようにするのが効果的だと考えられますか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア ファッション雑誌やテレビなどで取り上げられたことをアピールして売る。

イ 一般的なスウェットシャツの相場が五〇〇〇円であることを明記して売る。

ウ 元々の値段の二二〇〇〇円から25%を引いた値段として売る。

エ そのブランドが一〇〇年以上の歴史をもつ権威あるブランドだと強調して売る。

問3 空欄 に当てはまる漢字一字を考えて答えなさい。

問4 本文からは「もちろん後者がメインの課題です」という一文が抜けています。この一文を補う場所として適切なものを【A】～【D】から一つ選び、記号で答えなさい。

問5 空欄 に当てはまる文として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア ルーレットで65が出た場合の方が、ルーレットで10が出た場合よりも正確な判断ができたわけです。

イ ルーレットの数と正解との間に何か関係があるのではと疑い、その数に近い数を答えてしまったわけです。

ウ ルーレットで出た数字とは関係なく、大多数の人が正解とは程遠い数を回答したわけです。

エ たまたま出されたルーレットの目の大きさに引きずられて、後続する判断が影響を受けたわけです。

問6 ———— ② 「看過できない」の意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

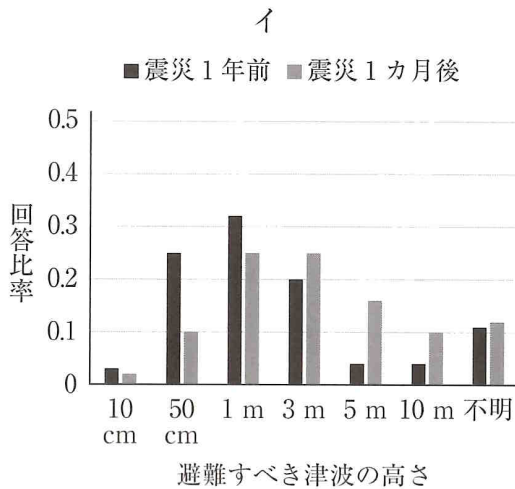
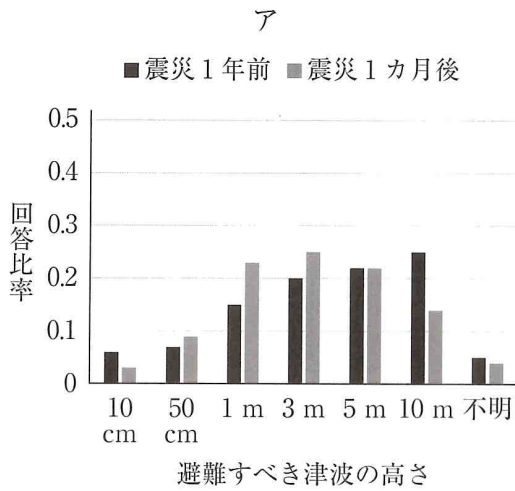
ア 放っておけない イ 計り知れない ウ 取るに足りない エ なすすべがない

問7 ——— ③ 「アンカリングの効果で、津波に対する認識が危険な方向に歪みつつあるのではないか」とあり

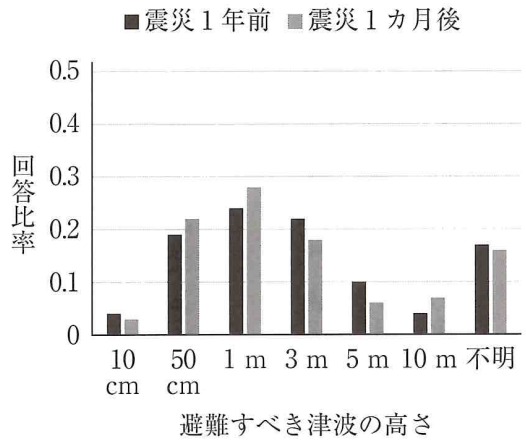
ますが、筆者は具体的にどのような影響を予測しましたか。それについて説明した次の文を、空欄に指定の
 字数を入れて完成させなさい。

(1) 二十字以内 ことよって、以前よりも (2) 三十五字以内 のではないかと予測した。

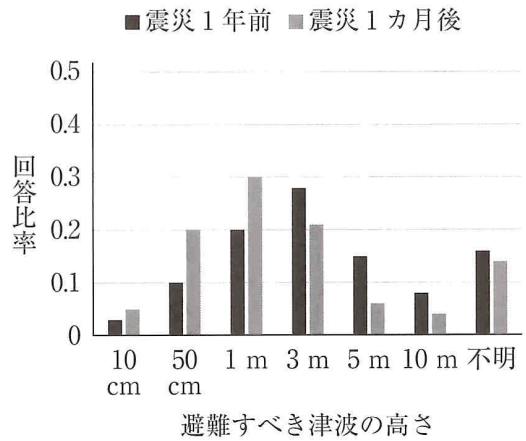
問8 ——— ④ 「次ページの図」とあるが、その図として最も適切と考えられるものを次から選び、記号で答え
 なさい。



ウ



エ



問9 ———⑤「それくらいのこと」とはどういうことですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

い。

ア 津波に対する認識が危険な方向に変容した原因である報道機関に向けて、注意を促す問題提起を行ったこと。

イ 巨大津波に関する報道の影響によって人々の認識が危険な方向に変化したことを、研究で明らかにしたこと。

ウ 津波に対する認識が危険な方向に変容したという研究結果を報道機関に向けて公表し、資料を提供したこと。

エ アンカリング効果がどれだけ強力な心理的プロセスであるかということ、報道を通して世間に伝えたこと。

問10 次のA～Cの文を読み、それぞれ本文の内容と合致するものには1、合致しないものには2と答えなさい。

A アンカリング効果は、ある判断を下す前に、それと関わりのある数値を目にした時にのみ起こる。

B アンカリング効果はその影響ばかりが注目され、それが起こる原因についてはまだ研究されていない。

C 東日本大震災後の人々の津波に対する認識は、筆者の予想通り危険な方向に変化していた。

(問題は次のページに続きます。)



次の文章は宮下奈都『羊と鋼の森』の一節です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

調律師の「僕（外村）」は、先輩の柳について見習いとして訪れた佐倉家で、この家のふたこの姉妹、和音と由仁に出会う。それぞれ違う個性を持ってピアノに打ち込んでいたふたりだったが、妹の由仁がピアノを弾くときだけ指が動かなくなってしまうという病気にかかってしまう。それにショックを受けた和音もピアノを弾けなくなり、佐倉家のピアノの調律はキャンセルされていた。しばらくして、佐倉家から調律を再開してほしいという連絡が入る。担当者の柳だけでなく、「僕」にも一緒に来てほしいという依頼だった。

予定を合わせて佐倉家を訪問できたのは、一週間後の午後遅い時間だった。

佐倉さんの奥さんが、穏やかな笑顔で出迎えてくれた。

「お待ちしていました」

奥からふたごが出てきて、揃ってお辞儀をした。

「お久しぶりです」

「お騒がせしました」

明るい声でほっとした。

「またよろしく願います」

「こちらこそ」

柳さんにもこやかに答える。

「また調律に呼んでいただけでうれいしいです」

後ろで僕も頭を下げる。ほんとうに、連絡がない間ずっと胸に大きな石がつかえていた①。それが、ようやく動いた。

ピアノのある部屋へ通されて、

「何かりクエストはありますか」

柳さんが聞く。

「おまかせします」

ふたごは声を揃えた。

「では、何かありましたらいつでもおっしゃってください」

彼女たちが部屋から出ていくと、柳さんは上着を脱いでピアノの椅子に置いた。

よく磨かれた黒いピアノを開ける。トーン、と白鍵を叩く。基準音のラはほとんど狂っていない。柳さんの調律をこうして近くで見ると見るのも久しぶりだった。この頃は単独で調律するばかりだ。

ふたりで来てほしいという依頼の理由を考える。どうして僕も呼んだのだろう。以前、由仁が店へ来て、病気のことを話してくれた。そうした以上は僕にも声をかけるのが礼儀だと思ったのか。

柳さんが調律している間、いろいろな考えが浮かんで消える。

この部屋は防音のしすぎだ。ピアノの足に防音装置を付けているのはもちろん、その下に毛足の長いカーペット

トを敷き、窓には分厚い防音カーテンが二重に掛けられている。前に来たときは、ずいぶん慎重な家庭なのだろうと思っただけだった。マンションだからしかたがないのだろう、と。でも、今は別の気持ちが強くなっている。もつたない。これではせつかくのピアノの音が半分は吸い込まれていってしまうだろう。和音の弾くピアノの魅力も半減してしまうということだ。

そう気づいたら、ぞくぞくした。半減して、あれか。

柳さんが弦の下に布を挟む作業をしている間に、両手を叩いてみる。ばん、と乾いた音が鳴ってすぐに消える。残響はほとんどない。さらに、窓の上から床まで下ろされた防音カーテンを開けて、また両手を叩いてみる。ばんっ。わずかながら、はつきりと残響が長く聞こえた。昼間に弾くときぐらいは、この重いカーテンを開けて弾いてもいいんじゃないだろうか。

「閉めて」

ピアノに屈み込んだまま、柳さんが言う。

「いつも閉まってるんだから、閉めた状態で調律したい」

「でも、もつたないです。開けて弾いたほうがいいです」

「わがままだなあ」

「えっ」

驚いた声に、柳さんが顔を上げる。

「なに驚いてんだ」

「すみません」

わがままだとされたのは、記憶きおくにある限り、生まれて初めてのことだ。

「わがまま、って、あの、僕のことでしょうか」

思わず確かめると、柳さんは A に皺しわを寄せてこちらを睨にらんだ。

「この部屋にいるのは誰だれだ。俺おれと外村だ。そして、俺は今仕事をしている。わがままは言っていないつもりだ。俺がわがままじゃないとしたら、さて、誰がわがままだと思う」

「はい」

右手を挙げた僕に、よろしい、と柳さんはうなずいてみせた。

しかたなく、一度開けたカーテンを戻もどす。音を遮さえぎるだけでなく、光も遮さえぎってしまう。もう一度僕はカーテンを開けた。夕刻のやわらかな日差しが差し込んでくる。

「おい」

「はい」

しぶしぶ閉める。もったいない、という思いを捨て切れぬ。

「こどもかよ」

こどもだなんて言われたのも、生まれて初めてだった。そうか、こどもか。ふ、と笑わらみが漏もれる。なんだか気持ちきもちが軽かろくなった。そうか、こどもか。わがままか。

「なに笑わらってんだ」

「いえ、すみません」

謝る声にも、笑いが混じっていただろう。

やっと、わがままになれた。これまでどうしてわがままじゃなかったんだらう。聞き分けがよかった。おとなしかった。いつも弟※に押おされていた。通したいほどの我ががなかった。

今、わがままだ、こどもだ、と指摘してきされてわかった。僕は、ほとんどのことに対してどうでもいいと思ってきた。わがままになる対象がきわめて限られていたのだ。

わがままが出るようなときは、もっと自分を信用するといい。わがままを究めればいい。僕の中のこともが、そう主張していた。

ふたごがどうして僕を呼んだのかわからないまま、滞とどりなく進む柳さんの調律を見ていた。端正たんせいな調律だった。ついてまわっているときはわからなかった。ひとりでやるようになってからあらためて見ると、一連の作業が非常に丁寧ていねいであることも、柳さんの手先がとても器用なことも、よくわかる。真似をしなくていい。誰もがこんな調律ができるわけではない。でも、ひとつのお手本だ。つくづく、見習い期間中にこの人に教わることができてよかったと思う。

「終わりました」

ドアを開けて、柳さんが声をかける。すぐに奥さんとふたごが入ってきた。

「前と同じ状態に調律しておきました」

柳さんが簡単に説明すると、由仁は少し不服そうだった。

「あ、う、^④ 私たちは前と同じじゃないですけど」

まっすぐに柳さんの目を見ながら言う。

「ピアノは同じにしておくほうがいいと思います。あなたたちが変わったのなら、きっと以前とは違う音色になります。それを確かめるのも大事なことだと思います」

由仁はわずかに首を傾けたまま黙っていたが、僕を見て言った。

「外村さんはどう思いますか」

僕がどう思うか聞きたくて呼んだわけではないと思うのに。しばらく由仁のまなざしを感じていたが、

「わかりません」

正直に答えると、視線が外されるのがわかった。

「弾いてもらわないと、わかりません。試しに弾いてみてもらえますか」

和音がうなずいた。

以前は、試しに弾くのも連弾れんたんだった。ピアノの前にふたりで並んですわっていたふたご。観る、などと言うと芸か何かのようだけれど、艶つやのある黒い楽器の前に、ふたごが並んですわったとき、聴きくよりもまず観るよろこびが胸の中で弾はじけた。こんなにいいものを僕ひとりで観てしまっているのか、という思い。どこかの音楽家によってあらかじめ書かれていた曲だとは思えないほど、ピアノから生まれてくるのは彼女たちの音楽だった。

由仁のピアノは魅力的だった。華やかで、縦横無尽むじんに走る奔放ほんぱんさがあった。人生の明るいところ、楽しいところを際立たせるようなピアノ。対して、和音のピアノは静かだった。静かな、森の中にこんこんと湧わき出る泉の

ような印象だ。これからどうなるのだろう。ふたりのピアノがひとりのピアノになって、それでも泉は泉でいられるのだろうか。

でも、和音がたったひとりでピアノの前にすわったとき、はっとした。背中が毅然※きぜんとしていた。白い指を鍵盤けんばんに乗せ、静かな曲が始まった瞬間しゅんかんに、記憶も雑念も、どこかへ飛んでしまった。

音楽が始まる前からすでに音楽を聴いていた気がした。今このときにしか聴けない音楽。和音の今が込められている。でも、ずっと続いていた音楽。短い曲を弾く間に、何度も何度も波が来た。和音のピアノは世界とつながる泉で、涸かれるどころか、誰も聴く人がいなかったとしてもずっと湧き出続けているのだった。

ピアノの向こう側に、和音を見つめる由仁の横顔があった。頬ほおが紅潮こうしゅうしている。由仁は弾けなくなったのに、和音は弾く。耐たえられるだろうか、と案じてしまったことが恥はずかしい。由仁こそ和音の泉を一番に信じていたのだろう。

短い曲が終わった。調律の具合を確かめるための軽い試し弾きかと思っただけで、違ちがった。和音の決意⑤がはつきりと聞こえた。和音は椅子から立ち上がり、こちらに向かつてきちんとお辞儀をした。

「ありがとうございます」

こちらこそ、と答える代わりに拍手はくしゅをした。由仁も、奥さんも、柳さんも、拍手をしていた。

「心配かけてごめんなさい」

和音が言った。そうして、次の言葉を発するために息を吸い込んだときに、僕にはもう和音が何を言おうとしているのかわかってしまった。

「私、ピアノを始めることにした」

和音のピアノはもう始まっている。とつくの昔に始まっている。本人が気づいていなかっただけで。ピアノから離れることなんて、できるわけがなかった。

「ピアニストになりたい」

静かな声に、確かな意志が宿っていた。まるで和音のピアノの音色みたいに。由仁の頭がびよこんと跳ねた。

「プロを目指すってことだよね」

晴れやかな声だった。うきうきと弾む声。和音はようやく表情を和らげてうなずいた。

「目指す」

「ピアノで食べていける人なんてひと握りの人だけよ」

奥さんが早口で言った。言ったそばから、自分の言葉など聞き流してほしいと思っただけ。ひと握りの人だからあきらめろだなんて、言っただけ。言わずにはいられない。そういう声だった。

「ピアノで食べていこうなんて思っていない」

和音は言った。

「ピアノを食べて生きていくんだよ」

部屋にいる全員が息を飲んで和音を見た。和音の、静かに微笑んでいるような顔。でも、黒い瞳が輝いていた。きれいだ、と思った。

いつのまに和音はこんなに強くなったんだろう。ほれほれと和音の顔を見る。きっと前からこの子の中にあつたものが、由仁が弾けなくなったことで※けさいか顕在化したのだと思う。そうだとしたら、悪いことばかりじゃない。由仁のことはとても残念だけれど。とても、とても残念だけれど。

※弟に押されていた……ふたつ年下の弟のほうが勉強や運動ができ、周囲からかわいがられていたと「僕」は思っていた。

※奔放さ……思うままにふるまうこと。

※毅然……意志がしっかりしていて、ものに動じない様子。

※顕在化……はつきりとあらわれること。

問1 ——— ①「胸に大きな石がつかえている」が表現している「僕」の心情を漢字二字で答えなさい。

問2 ——— ②「ぞくぞくした」とありますが、これは「僕」のどのような気持ちを表していますか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 和音のピアノの魅力が、いかに大きなものであるかにあらためて気づいた興奮。

イ 防音をやめさえすれば、和音のピアノは素晴らしく聞こえるだろうという期待。

ウ 過剰かじょうな防音によって、和音のピアノの音量が半減してしまうことへのいらだち。

エ 和音の美しいピアノの音が、半分は吸い込まれていってしまうことへの悔しさ。

問3 空欄 A に当てはまる言葉を次から選び、記号で答えなさい。

ア 額 イ ほお ウ 口元 エ 眉間みけん オ 鼻

問4 ——— ③ 「ふ、と笑みが漏れる」とありますが、「僕」が笑ったのはなぜですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 注意されても何度も同じことを繰り返していたが、それがわがままなのだと言われて驚いたから。
イ こどものように純粋じゆんすいな気持ちを持ち続けるためには、我がを通すことも必要なのだ気づいたから。
ウ これまでほとんどのことをどうでもいいと思ってきたが、それはかえって迷惑めいわくなのだ分かったから。
エ 本当に大切にしたいもののためなら、聞き分けの悪くなる自分をゆるしてもいいのだと思ったから。

問5 ——— ④ 「私たちは前と同じじゃないですけど」とありますが、どう変わるのですか。その原因をふくめて五十字以内で答えなさい。

問6 ——— ⑤ 「和音の決意」とは、具体的にどのようなことですか。十五字以内で答えなさい。

問7 ——— ⑥ 「和音のピアノの音色」をたとえている部分を本文中から十五字以内で探し、最初の五字を答えなさい。

問8 ——— ⑦ 「ピアノで食べていける人なんてひと握りの人だけよ」という言葉にこめられた「奥さん」の気持ちを説明した次の文を、空欄に指定の字数を入れて完成させなさい。

(1) 十五字以内 と思っているが、 (2) 三十字以内 ということも言っておかなければならないという思い。

問9 ——— ⑧ 「ピアノを食べて生きていくんだよ」とありますが、それはどういうことですか。最も適切なも

のを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自分のピアノを信じてくれた由仁の信頼に応えるためにも、ピアニストとしての成功を目指し、努力を続けるのだということ。

イ 世界とつながる手段としてピアノを弾き、世界中の音楽を愛する人に、自分のピアノの音色を届けるのだということ。

ウ 聴く人がいようがいまいが、自分はピアノを弾くことから離れては生きられず、ピアノを生きがいとするのだということ。

エ ピアノを愛する自分の心のままに、たった一人でも、自分を成長させるためにずっとピアノを弾いていくのだということ。